浄土宗　方便山 香蓮院 善立寺

香蓮（こうれん）

2023 WINTER

『どうする家康』の浄土宗的みどころ

地蔵菩薩像 / 善立寺蔵

NHK新大河ドラマ

『どうする家康』

浄土宗的みどころ

今年の大河ドラマは徳川家康！篤い浄土宗信徒だった家康の生涯には浄土宗的なみどころがたくさん！

徳川家康像（狩野探幽画、大阪城天守閣蔵）

みどころ①

家康の自害を止めたのは浄土宗のお坊さん

一五六〇年、桶狭間の戦いで総大将今川義元を失った家康は追手を逃れて岡崎の松平家菩提寺『大樹寺』に逃げ込みました。祖先の墓前で自害しようとしたところ、大樹寺住職登誉上人に止められ、「厭離穢土欣求浄土」（穢れた世を離れ、清らかな地を求めよ）の教えを説かれました。この教えを聞いた家康は戦乱を終わらせ、泰平の世を作り上げる決意を固めたそうです。ちなみに登誉上人、今作では里見浩太朗さんが演じられます。

松平家菩提寺 大樹寺（愛知県岡崎市）※1

みどころ②

家康の旗印も浄土宗の言葉

厭離穢土　欣求浄土

穢れた地を離れ浄土を求めよ

登誉上人が説いたこの言葉に感銘を受けた家康はこの言葉を徳川軍の旗印にします。戦に勝つことではなく、戦乱を終わらせ、平和の世を作るのだ。との家康の決意を感じる旗印ですね。ドラマでも戦の本陣の場面で「南無阿弥陀仏」の旗と共に掲げられることでしょう。ちなみに「厭離穢土欣求浄土」は現代でも浄土宗の法要で読まれる言葉です。

※ 1Bariston CC 表示 - 継承 4.0

みどころ③

徳川家菩提寺として芝・増上寺の大整備

家康の念持仏『秘仏 黒本尊（くろほんぞん）阿弥陀如来』

一五九〇年、江戸に移った家康は増上寺を菩提寺と定め、伽藍を整備しました。後に増上寺は３千人の学僧が常時生活する江戸を代表する大寺院として隆盛を極めます。また、増上寺の三解脱門に登ると江戸を一望できたため、観光名所としても親しまれました。増上寺には今も家康ゆかりの品が残っていますがその中でも有名なのが『黒本尊』。これは家康が戦場まで持ち歩いた阿弥陀如来像で燻煙で真っ黒なため『黒本尊』と呼ばれるようになりました。天下泰平を成した家康にちなみ『勝運の仏さま』として勝負事や商売繁盛にご利益があると数多くの参拝者が訪れています。ドラマでもこの黒本尊に祈る家康の姿が見られるかもしれません。

大本山増上寺　今も昔も東京のランドマーク

黒本尊が祀られる増上寺安国殿

みどころ④

家康は どこまで想定していた？

家康は増上寺だけでなく、京都の知恩院、金戒光明寺も菩提寺として整備しました。家康没後、三代家光までかけて完成した両寺は石垣や曲がり角が多数ある城郭構造になっています。さらに金戒光明寺の門下には宿坊が並び、常時数百人が宿泊できるようになっています。これは京の朝廷を監視し、有事が起こった際、軍の駐留地にするためと言われています。

家康の構想は３００年後に的中することになりました。明治維新の折、金戒光明寺は京都守護職・会津藩本陣として用いられ、新選組結成の地となりました。

織田がつき羽柴がこねし天下餅
座りしままに食ふは徳川

と棚ぼたで天下を取ったと表現されがちな家康が今回の大河ドラマではどのような人物として描かれるのか楽しみですね。

総本山知恩院

京都守護職会津藩本陣の金戒光明寺

過去と未来を編纂する

東京・芝 最勝院住職
村田洋一上人（64）

お坊さんがお坊さんにインタビューする特集「エコー」、今回は東京都芝公園にある最勝院住職、村田洋一上人にお話を伺いました。

浄土宗大本山増上寺の塔頭寺院（大寺院内にある個別寺院）で、二代将軍秀忠公の正室（妻）『お江』の御霊屋である最勝院さま。そこには時代に翻弄された知られざる苦難の歴史がありました。

副住職（以下、副）：最勝院さまの由来について教えてください。

村田上人（以下、村田）：最勝院は寛永三年（一六二六）に亡くなったお江の御霊屋を護るために建てられました。織田、豊臣、徳川を親類に持つお江はとても影響力のある方で葬儀は後の秀忠公の葬儀より盛大だったそうです。当院も江戸時代は幕府の庇護のもと徳川家の私的寺院として継承されました。

しかし、明治維新により幕府の庇護を失い、徳川家に関わる法要も行われなくなりました。徳川家のための寺院であったがゆえにお檀家さんもおりませんでした。境内地も三分の一ほどに縮小され、現在地に移転されました。その後、どのように維持してきたのかはわかっておりませんが大変だったと思います。

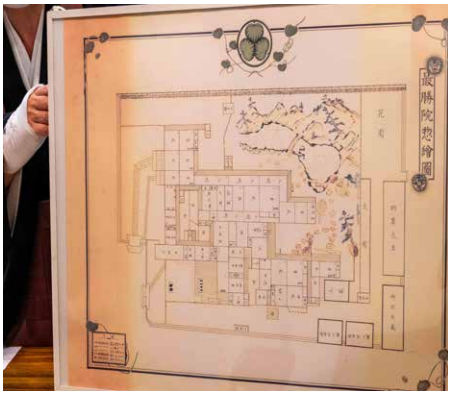
住職が住んでいない時代もあり、昭和六年から十年までは作家の吉川英治さんが当院をまるごと借りて生活されていました。ここで『親鸞』が書かれ、代表作『宮本武蔵』の構成も練られたようです。当時の建物も空襲により焼失。その後も二度火事に遭い、護持のため境内地を売却するなどして現在に至ります。

副：村田上人はどういった経緯でお坊さんになられたのですか？

村田：私にとって当院は母方の実家にあたります。母の長兄が継ぐ予定でしたが、出兵先から引き上げる際、ロシア軍の魚雷により船が沈み、亡くなってしまいました。そのため、次兄である伯父が継ぐことになりました。といっても、改良服※1も無

お江の念持仏。蓮の蕾に阿弥陀如来像が収められている

※1　改良服　お坊さんが日常着る最も一般的な法衣。写真で村田上人や副住職が着ているもの



創建当時の最勝院の絵図

いくらい法事法要がないお寺でしたので、住職は中学校で国語の先生をしながら最勝院を護っていました。

私が子どもの頃、最勝院に遊びに来ても、ちょっと大きめの仏壇があるごく普通の民家で、お寺だと知ったのは後のことでした。私が高校生のとき、当院が火事に遭い、住職が私の家に仮住まいしました。そうしたこともあり就職が決まった大学時代に僧侶の道に誘われて住職の養子になりました。

大学卒業後、『家庭画報』などを出版する世界文化社で男性誌『ビッグマン』の編集者をしていました。当時はバブル全盛で東京の出版社と言えば流行の最先端。毎日、朝から日付が変わるまで働き、さらに僧侶の資格を得るために佛教大学通信科に入り、休日は課題、夏は修行という生活を送っていました。そんな状態だったのでお寺で一緒に暮らす住職とは顔を合わせることも少なかったです。そして、何の引き継ぎも無いまま、昭和六十年に住職が急逝しました。それから私が修行を終えるまでは先代の兄弟弟子に兼務していただきながら、平成三年、加行（浄土宗僧侶最後の修行）を終えました。

その後もこれまで通り、働きながらお寺を護る選択肢もありました。たしかに出版社は華やかな世界で充実していました。しかし売れるための企画に縛られる雑誌を作ること、歳を重ねて取材相手が私よりも年下になったこと、そして仏教を学ぶ中で自分のこれまでの人生を顧みたとき、「このままでいいのか」という想いが湧き、一度、人生をリセットしてみようと会社を辞めて、最勝院を引き継ぎました。

江戸時代、最勝院があった場所

しかし、いざお寺に入ってみると予想以上に状況は厳しく、会社員時代の貯蓄を切り崩し、休日は八王子や千葉のお寺へお手伝いに伺って生計を立てていました。編集の経験を買われ、浄土宗出版室の非常勤職員や総合研究所で様々な出版物の編集にも携わりました。同じ頃、法然上人鑽仰会（ほうねんしょうにんさんごうかい）※2にお声がけいただき、月刊誌『浄土』の編集に携わり、一昨年からは編集長を務めています。

マンション地下にある最勝院本堂

副：護持が難しい中でも投げ出さず、続けられてきた熱意の原動力はなんでしょうか？

村田：今、目の前にお江が手にしていた念持仏がある。震災や空襲を逃れ、最勝院が代々守り抜いてきた宝物がある。となったとき、それらを放り出すことは考えられませんでした。一方、このままの状態では次の世代に引き継げないという現実も見えていましたので、どうしたら最勝院を次の世代に残していけるのかと考えを巡らせる日々でした。

東京にも同じように悩むお寺があり、なかには別の場所に移転して再起をかけるお寺もあります。しかし、最勝院は増上寺塔頭寺院であり、やはりこの地にあることに意味があります。

この地に最勝院を残していくため、平成十八年、上階を賃貸物件として整備し、地階に本堂を納める現在の形に至りました。資金もなく、建設には東奔西走しました。

四百年前から時代時代の住職の想いで継承されてきた最勝院は私にとってもすごく思い入れのあるお寺です。次の世代の人たちもより良い最勝院のかたちを見つけ、未来に継承してくれたら嬉しい限りです。

最勝院ご本尊

※2　法然上人鑽仰会
戦前から現在も続く浄土宗有志僧侶の会

法然上人ってどんな人？

4 晩年～極楽往生

 # 浄土宗を開いたお坊さん
#1175 年に浄土宗を開く
 # 四国に流罪、後に帰京
#1212 年亡くなる

前回までのお話

1133 年、岡山県に生まれた法然上人は父を夜討ちで失った後、延暦寺で仏教を学びます。すべての人が救われる教えを探し求めた法然上人は1175 年、『観経疏』に「南無阿弥陀仏」のお念仏の教えを見出し、浄土宗を開かれました。浄土宗が民衆へ急速に広まる一方、既存仏教教団からの弾圧を受け、最終的に法然上人 75 歳のとき四国へ流罪となってしまいました。

帰京と晩年

当時 75 歳の法然上人でありましたが、四国に向かう村々で阿弥陀仏の教えを説き、船上では遊女に教えを請われ「阿弥陀仏は男女や職業に依らず、全ての人をお救いくださる」と説かれました。

流罪地の香川でも精力的に布教を行われ、現在も法然上人ゆかりのお寺が多数残っています。

流罪から約一年後、赦免され関西に戻られましたが京に入ることまでは許されなかったようで、数年間は兵庫県箕面市の勝尾寺にいらっしゃいました。そして流罪から４年後の 1211 年、現在の総本山知恩院にある勢至堂に戻られました。

極楽往生

京に戻られた後、法然上人はまもなくして床に臥されます。常にお側に仕えていた弟子の源智上人が「法然上人の亡き後、よりどころとなるお言葉を残してください」と頼んだところ、現在も日々読まれる『一枚起請文』を書き残されました。

また弟子からの「偉いお坊さまはみな、遺跡（教えの中心となる場所）がございます。法然上人亡き後、どちらを遺跡とされますか？」との問いに「場所を定めると教えがそこに留まってしまう。念仏の声するところがすべてがわたしの遺跡である」と残され、1212 年 1 月 25 日、80 歳で極楽往生を遂げられました。その後は九州の聖光上人が浄土宗２祖（２代目）となり九州へお念仏を広めました。３代目は鎌倉の良忠上人が継承し、京・九州・鎌倉と、法然上人の教えは日本中に広まりました。

私たちへつづく

永代供養墓のご案内

御遺骨は永代供養墓内の個別棚に安置され、
一定年数経た後に合葬いたします。

皆様の安心のために

善立寺永代供養墓が平成 30 年に完成いたしました。

完成以来、多くのご相談をいただいております。当山のお檀家さまからご紹介を受けて相談にいらっしゃる方も多く、

「相談できてよかった。これから安心して過ごせます」と晴れやかなお顔でお帰りになっていただいております。

善立寺永代供養塔は、春・秋彼岸・お盆の年３回、追善法要を行うなど、手厚いご供養を行っております。詳細は善立寺まで気軽にお問い合わせください。

ご親戚・お知り合いでお墓についてお困りの方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください

お問い合わせ先 / 善立寺：0263-53-2645

善立寺は WEB も LINE も便利です

善立寺 **LINE** 公式アカウントできました
質問やご相談などお気軽に

お友達登録はこちらから→

@199ergga

WEB サイトも更新中！

インタビュー記事や作法についても

歯医者のお坊さんや音楽家のお坊さんなどへのインタビュー記事や御十念の唱え方、合掌の仕方をまとめた記事も掲載中！

年忌法要のお申し込みも WEB から！

年忌法要のお申込みや連絡先変更も WEB フォームから。改葬許可申請もできるようになりました。法要準備チェックリストも。

https://zenryuji-jodo.com

④お手洗い自動水栓化

①大盆施餓鬼法要

③会館エアコン設置

②薬師・観音例大祭

令和四年下半期の活動

大盆施餓鬼法要

令和4年7月28日、当山最大の年中法要大盆施餓鬼法要を執り行いました。本年はコロナ感染拡大のため檀信徒を代表して檀信徒会役員の皆様と共に法要を執り行いました①

薬師・観音例大祭

11月5日、薬師・観音例大祭を執り行いました。本年は檀信徒役員の皆様にご参列いただき、法話は副住職の「見て触って撮る仏像」をお話しました②

寺内環境整備

・会館エアコン設置

近年の猛暑対策として檀信徒会様より会館にエアコンを2機設置いただきました。熱中症の心配なく快適に休憩や御斎に利用いただけます③

・お手洗い自動水栓化

感染症対策としてお手洗いプッシュ式自動止水栓にいたしました④

社会貢献活動

当山は社会貢献活動として災害ボランティア活動や非営利団体への支援を行っています。

・おてらおやつクラブ

いただいたお供物の一部をフードバンク信州にお送りしています

・NPO法人ジャーダック

病気の子どもたちに医療用ウィッグを無償で提供する活動

・公益社団法人ハタチ基金

東日本大震災で被災した子どもたちへの教育支援活動

・認定NPO法人フローレンス

病児保育や障害児保育、特別養子縁組への支援活動

・シャンティ国際ボランティア会

発展途上国に絵本を届ける活動

・プラン・インターナショナル

発展途上国の児童教育活動

・テイクアウト塩尻

塩尻市内飲食店をまとめたテイクアウト塩尻」の運営を行っています。

【今後の行事について】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の行事について、縮小、変更などの可能性がございます。その際はご連絡いたしますので、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年の回忌法要早見表

1周忌	令和 4年 (2022) 没
3回忌	令和 3年 (2021) 没
7回忌	平成 29年 (2017) 没
13回忌	平成 23年 (2011) 没
17回忌	平成 19年 (2007) 没
23回忌	平成 13年 (2001) 没

※休日は混み合いますので、お早めにご相談下さい。

編集後記

寺報も十一年目を迎えました。今号からインタビュー記事も再開しました！表紙は善立寺に祀られる地蔵菩薩像です。彫りも装飾も素晴らしく、優しいお顔の菩薩様です。廃仏により目録が消失し詳しいことは分かりませんがこの地にあり護られてきた意味を村田上人のインタビューを通して感じております。

公式サイト
QR コード

善立寺公式サイト：https://zenryuji-jodo.com

令和5年1月1日
発行所　方便山善立寺　塩尻市広丘野村793-1
電話 0263-53-2645　発行・編集：善立寺